

◆【全国発信記事】北海道地方支部 航海の安全と大漁を祈願し4隻の沖合底曳網漁船が出港

—北海道・小樽地区—

小樽地区の沖合底曳網漁船の操業周期は、毎年9月半ばに漁が始まり、6月15日の漁期切り揚げ後から約3カ月間は本船の整備作業と漁具の整備となり、次の出漁に備えることになる。今年も出漁時期を前にした9月10日、小樽地区の4隻の沖合底曳網漁船「第81桂丸＝伊藤漁業部」「第85日東丸＝日東水産」「第57丸中丸＝盛本漁業部」「新世丸＝小樽機船漁業協同組合」が小樽港で大漁を祈願し、9月15日に、操業シーズンの大漁を目指し出港した

小樽地区の沖合底曳網漁船の大漁祈願は、小樽港の岸壁に係船する本船サイドで行われ、神主の祝詞が響き渡るなか、厳かに執り行われ、各船主と乗組員が粛々と大漁と安全操業、航海安全を祈った。

出漁日の9月15日は、天候は快晴。気温は肌寒さを感じるも、海は穏やかで幸先の良い出漁日和となった。

船が出港する時刻になると、乗組員の家族や関係者が岸壁に集まり、子どもたちは声を張り上げ「頑張ってねー」と元気にエールを送った。

大漁と安全操業、航海安全のエールを送られた各船は、大漁を目指すと意気込み、見送りに来た家族たちに向け「お見送りありがとう。頑張ってまいります」と応え出港した。

***** 底曳網漁業とは *****

網を用いる漁法（網漁業）は、定置網漁業、刺し網漁業、地引網漁業、まき網漁業、底曳網漁業など、さまざまな漁業が存在するが、まき網漁業と底曳網漁業は、本船が漁場を移動して操業する漁法。

一般的には、まき網漁業はアジ、サバ、イワシといった浮魚（うきうお）を、底曳網漁業はタラ、カレイ、エビ、カニといった底魚（そこうお）を主対象としている。底曳網漁業は漁船から伸ばした曳き網（ワイヤーなど）に直結した袋状の漁網を曳航し、または引き寄せて多種多様な底魚類を漁獲する漁業

「海員だより」